

### ●飯田絵美(サンケイスポーツ記者)

スポーツ記者、一年生です。スポーツという一つのテーマを表現する時、「試合の結果」だけでなく、「選手の心の動きとその背景」を伝えたい、そこにはきっと人の感情を刺激したり、共感を生む「何か」がある」と思っています。スポーツ記者を志しました。

目下、お昼頃に出社、新聞に目を通して、三時過ぎから先輩と取材へ出かけます。何か夜の試合があれば九時頃に社に戻り、短い原稿をワープロで打つこともあり。最終ゲラ(校正刷り)を見終わって帰宅するのは深夜の一時半過ぎ。気力と体力が勝負といった毎日です。

今は各競技のルールやスポーツ界の現状を学ぶのに精一杯ですが、仕事を通してどこまで「人」に近づくことができるか試してみたいと思っています。

### ●本田美登里(読売日本サッカークラブ) (女子 ベレーザ主務)

昭和五十六年に創部の「ベレーザ」は、ポルトガル語で「美人」を意味します。私を含めて昨シーズンまでのレギュラー四人が引退しましたが、昨年度リーグMVPのキャプテン高倉率いる新メンバーで「見せるサッカー」を目指し、リーグ四連覇を狙っています。現在、部長は中学生から社会人まで二十七人で、年齢は十四歳から二十五歳まで。「女性ということ」をほと

んど意識せずにスポーツに打ち込んでいる年代から、じっくり考えている年代」まで幅が広く、サッカーをする上で、チームとして女性だからと特に気をつけていることはありません。ただ男子の場合は、サッカーが好きでのめり込み、だからきつい練習にも耐えられる、というのに比べ、女子の場合は同じようにサッカーが好きでも、そこまで打ち込める環境になかったり、サッカー一途になれる人は少ないように思います。後輩たちを指導する時は、怒られるとすぐすねる子、おだてて伸び

## VOICE

## 会員の声

ラクターの資格認定に関する仕事に携わっています。

もともとはモダンダンサーでした。ヨガも学んだのち、一九七九年に女優ジェーン・フォンダの開設した「ワイクアウト」のすばらしさにひかれて渡米しました。そこでエアロビクスとの出会い。まさに啓示を受けたという感じでした。

この十年でエアロビクス(ダンス)は日本にかなり浸透しました。主婦や男性にも愛好者が増え、生涯スポーツとして認知されるようになりました。

らきめ細かく対応しています。

Jリーグ人気で、女子サッカーにももっと関心が高まってくることを期待しています。

### ●山岡有美(フィットネス指導者)

エアロビックダンスの火つけ役となった原宿の「スタジオN.A.F.A」を開設して十一年になります。主にインストラクター養成と、一般の方の指導をしています。(社)日本エアロビックフィットネス協会では理事として、インスト

大学では、主に野外運動、レクリエーション・スポーツに関する研究をしています。特に力を入れているのが「フライングディスク」。プラスチック製の円盤を投げるスポーツで、「フリスビー」といえばおわかりになる方も多いでしょう。競技には八つの個人種目と二つの団体種目、合わせて十種目あります。学生を中心に普及していて、授業の中にも取り入れています。

「女性スポーツ」のかかわりも、フライングディスクです。日本フライングディスク協会の専門委員をしている関係から、昨年八月に宇都宮で開催された世界大会で、全日本女子チームのコーチを務めました。十一カ国が参加して行われたなか、団体種目の「アルティメット」と「ガッツ」でみごとに優勝! それまでは単独チームで出ていたのですが、選抜チームを作った甲斐がありました。

これからも上位を狙っていくには、選手層を厚くしていくことが肝心です。関東地方では男子が二十〜三十チームあるのに対し、女子は十四〜十五チームとまだまだ競技人口が少ないので、もっと普及させたいと思っています。

底辺が広がり、競技スポーツとしても発展し、世界大会で優秀な成績を収められるまでになったのです。

### ●島 健(上智大学 保健体育研究室講師)

は審査委員長を務めます。

